

# 隨泉寺寺報

平成16年(2004年)8月号 第408号

082-892-0217 <http://ww41.tiki.ne.jp/~tetunari4/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

お盆会法座

講師 住職自修

講題 「お盆を迎えるにあたって」

みな人の 知り顔(がほ)にして 知らぬかな  
 かならず死ぬる ならひありとは 慈鎮和尚(新古今集)  
 【通釈】誰も皆、知ったような顔をしてるけど、ほんとに肝に銘じては知らないんだなあ。生あるもの、必ず死ぬという決まりがあるとは。

7月に入って広島は雨らしい雨は降りませんが、新潟や福井は集中豪雨で大変な被害が出ています。テレビで放送される被害の状況を見ると11年前の隨泉寺の裏山が崩れたときを思い出します。あの時、日頃は足が痛いとか腰が痛いといっておられたご門徒の皆さんが、長靴を履いてスコップを持って駆けつけてくださったことを忘れません。時間が取れば救援に行きたいと思っていたら、長女が本願寺から行くといってくれました。

今年もお盆がやってきました。初盆を迎えられる方、ふるさとに帰られる方、遊びに行かれる方、仕事の方、それぞれあると思います。去年のお盆はああった、こうだった思い出しますが、いつかは自分が初盆の人として懐かしまれるときが来ます。

## 8月の法座予定

8月3日～4日 ……少年少女の集い

8月16日朝席午前10時より……お盆会法座

8月16日昼席午後1時半より……初盆追悼法要

9月 2日午後6時より……門信徒会本部役員会

## 平成16年初盆を迎えられる方

俗名	法名	命日	享年	
水川	フミヨ 釋尼妙常	平成15年8月8日	85才	長者原西
秀浦	義夫 釋義淨	平成15年8月11日	93才	望ヶ丘
吉名	千代恵 釋淨恵	平成15年8月16日	87才	瀬野川団地
畑野	貫 釋貫心	平成15年8月21日	82才	平原東
和田	スミコ 釋淨澄	平成15年9月14日	81才	平原西
高橋	定一 釋正心	平成15年9月26日	86才	長者原西
延	弘 釋信弘	平成15年10月18日	87才	長者原東
三宅	マサコ 釋正定	平成15年11月2日	99才	中須賀
佐々木	忠次郎 釋宣忠	平成15年11月10日	96才	中須賀
谷川	千代子 釋唯称	平成15年11月16日	57才	コモンライフ
中田	満紀子 釋尼紀良	平成15年11月29日	70才	町外
林	勝美 釋顯証	平成15年12月12日	75才	中須賀
山村	春信 釋春調	平成15年12月15日	93才	瀬野
輿	由明 釋由行	平成16年1月3日	89才	鴨の巣
合原	ミツコ 釋淨満	平成16年1月23日	83才	桑原
橋本	ミユキ 釋深信	平成16年1月27日	90才	平原西
中	シゲ子 釋尼繁昌	平成16年2月4日	76才	町外
松尾	悦雄 釋悦淨	平成16年2月9日	75才	町外
平中	以己 釋以淨	平成16年2月14日	57才	宮原
浅田	竹よ 釋尼慈愛	平成16年2月16日	91才	瀬野川団地
坂根	一美 釋一真	平成16年2月25日	63才	望ヶ丘
燈明田	真二 釋真性	平成16年3月20日	49才	高部
宮原	登美子 釋登彼	平成16年3月20日	81才	町外
中田	濱吉 釋正覚	平成16年3月21日	94才	瀬野川団地
八木	博幸 釋博慧	平成16年3月24日	40才	長者原西
井村	洋子 釋淨鏡	平成16年4月5日	62才	望ヶ丘
今村	郁代 釋明淨	平成16年4月12日	57才	瀬野
大村	福司 釋見慶	平成16年4月16日	84才	望ヶ丘
上村	とし子 釋明俊	平成16年4月21日	96才	町外
和田	四三 釋正思	平成16年4月22日	87才	平原西
川野	等 等覚院 釋俊諦	平成16年5月8日	92才	上平原2
山本	正則 釋智行	平成16年5月11日	86才	中須賀
中塩	周三 釋明教	平成16年5月20日	74才	鴨の巣
内海	貞勝 専行院 釋勝道	平成16年6月7日	62才	望ヶ丘
中元	博章 釋照博	平成16年6月22日	22才	高部
臼井	節子 釋尼純恵	平成16年6月28日	98才	長者原東
井谷	忠人 信楽院 釋審駿宣忠	平成16年6月29日	89才	町外
竹本	幸江 釋幸明	平成16年7月25日	81才	町外
奥田	泰蔵 法蔵院 釋勝泰	平成16年7月25日	89才	鴨の巣

## 息子よ・・・

6月27日でやっと息子の百ヶ日が過ぎました。  
ある日突然、48歳の若さでお浄土へと旅立った息子を思い、いまだ涙が止まりません。

今から6年前、交通事故にあい、意識不明のまま病院に運ばれ、「頭を強く打っていますので、命に保障はできません。」と医師に言われました。しかし、何とか命を取り留めて退院しましたが、後遺



症が残り、その後入退院を何度も繰り返していました。そんな中、離れて暮らす嫁の元へ「早く元気になって、社会復帰をして帰りたい」と、一生懸命がんばったのですが、月日がたつにつれだんだんと気が衰えていきました。

息子と二人で暮らした中で思い出すことは、夕暮れになりあたりが暗くなると、懐中電灯の灯かりをかざしながら、畑で仕事をする私の元へ「足が悪いのに、転んで怪我したらどうするん。」と度々迎えにきてくれたことや、買物から帰った時も玄関ま

で荷物もちに出てくれて、「重かったね。」と中へ運んでくれたことです。

今年になって、ますます気力も体力も弱ってきて、時々目に涙を溜めて「お母ちゃん長い間ありがとう。何にもしてあげられなくてごめんね。もう駄目かもしれん。」と言っていました。そんな時「何を言ってるの 親にとって子供は何にもしてくれんでいいによ。生きていてくれれば・・・」と泣き泣き言いました。

本当にこんないたらぬ母でも「おかあちゃん、おかあちゃん」と大切にしてくれました。

唯、唯一のなぐさめは、春の彼岸の中日にやすらかに眠ったまま、大好きだった父と祖父母の待つお浄土へ旅立ったことです。

おとうちゃん、真二をよろしく願いますね。

燈明田 ウメノ

## まことの「いのち」に目覚める

カレンダー8月号 東井 義雄

ひとつの仕事を、親と子がいっしょになって、それぞれの能力に応じて背負いあっていくような在り方の中で、人間らしい思いやりや察しの心も育っていき、生きるということのほんとうの喜びや悲しみを、子どもたちは育てられていくのです。

こういう親と子の在り方が、まだ十数年前までは、私たちの地方では、当然のこととして存在していました。

仕事着の洗たく 中三 女子

きょうもまた パケツいっぱい洗たく物を水すすぎ

父や母、兄たちの仕事着だ。

どの服も、十五分はかかる。

すすいでも、すすいでも、汗臭いにおいが鼻をさす。

特にひどいのが、父の服。 エリ、ソデまわり、土色だ。

兄も母も同じくらい黄色をおびている。

私のは 汗のあとなんか とっくに消えている。

汗は汗でも 父たちの汗は からだのしん底から

ジクジクにじみ出た脂汗なんだ。

さわってみても ズルツとしてい

父の服は土色でできない。

泥土と汗にまぶれながらの畑こぞりや、田の草とりの父の姿がうかんでくる。

セメント壁工場に働く母の仕事着は セメントの粉が胸にいっぱい。

こんな粉のとびたつ中で働く母。

兄のズボンのすそからは 砂がでてくる。

一日中 ダンプカーを運転している兄だ。 洗たく、水すすぎ。

私はこうして仕事着を洗いながら、 しみじみと 父たちの働きを思うのだ。



こういう中で、子どもは「生きる」ということを学んでいくのです。「親と子の対話」というような、口先と口先の関係ではなく、もっともっと奥深いところで、子どもは「連帯」ということを学び、「ひとりよがり」を卒業していくのです。

そして、ふつうでは気づくことのできないことを気づくようになり、ふつうではなかなか見えないことが見えるようになり、ふつうでは聞こえないいのちの声を聞くことができるようになり、まちがいのない人生を歩むことができるようになっていくのです。だから、わたしは、親ごさんたちに、「子どもに仕事を与えてやってください。責任の場を与えてやってください」と言い続けてきました。